

# 自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成 24 年度 NO.3

平成 24 年 6 月 3 日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## ○ ○ ドングリの木・・・ミズナラ（ブナ科）

日本の温帯林を作る代表樹種の1つ。この辺でも普通に見られる。寿命は1000年とも言われる。多量の水分が含まれ、容易に燃えないため水槽、など諸説あり。ドングリをつくる近縁のコナラはだいたいこの辺が北限、カシワは全道的にあるものの海岸沿いが多い。葉柄は、コナラは有柄、他の2種はごく短い。葉の鋸歯は、カシワは波状、他の2種は尖る。葉の大きさはそれぞれ異なる。冬芽は3種共に五角錐形で周りに頂生側芽がある。本種は木目が美しく、加工しやすい。高級家具、フローリング、ワイン樽、シイタケのほだ木などに利用。

雄花は新枝の始まりに下垂、雌花は新枝の先の葉の間にあり（図）、5~6月に開花。雄花が垂れ下がっている頃、雌花は分りにくいのですが、枝先の葉のかたまりの間を探して見て下さい。

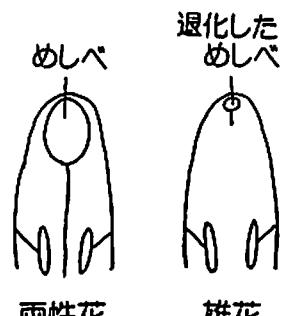
ドングリ（団栗）…ナラ・カシ・クヌギなどの果実の総称。ドングリは渋味が強く、生や焼いても食べられません。1万年ぐらい前、縄文時代、大型の動物を食べつくし、人類の生存が危なかったとき、ドングリを食べた。土器で煮ると渋味が抜けた。アイヌの人達も渋を抜いて、デンパンを取り出し食料とした。また、野生動物（クマ・シカ・リス・ネズミ・カラス・カケス）の重要な食料。



ミズナラの花

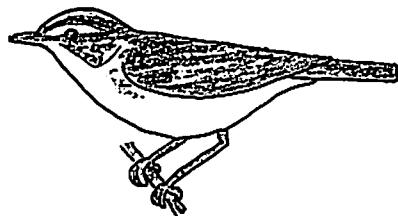
## ○ ○ 養分を有效地に活用・・・オオアマドコロ（ユリ科）

太い根を持ち、茎は角張る。高さ60~100cmになり、上の方は弓状に曲がる。葉裏の小脈上に小突起あり、花の長さ2.5cm。茎の下部はおしべとめしべを持つ両性花を付け、上部は退化しためしべを持つ雄花が付いている（図）。本種は自家不和合性で、同じ株の花粉では種子ができず、他の株の花粉が必要で、ハチに運んでもらう。茎の上部は果実を作るための養分が不足しがちという。上部に両性花を付けると、めしべは無駄になってしまう。しかし、上部におしべを付けて、花粉親になる機会をつくるという戦略を取っているという。ヤマノイモ科のオニドコロ（トコロ）に似た根を持ち、その根が甘いので→アマドコロ。より大型なので→オオ。アマドコロは小形、茎の高さ30~80cm、花の長さ2cm以下、葉裏の小脈上に小突起なし。山菜としては若芽（はかまから葉が出た頃）、花（5~6月）、根茎（いつでも）。毒草のホウチャクソウ（ユリ科）が似ているので注意が必要です。



○ ○ 小さな夏鳥・・・センダイムシクイ（千代虫食）ウグイス科

チヨチヨ（千代）と鳴き、虫を食べるので→センダイムシクイ。仙台とは無関係。頭に灰緑色の頭央線（他のウグイス類にはない）あり。体重はわずか10g（10円玉1ヶ5g）。林の中、上層部で採餌。芽などは食べず、虫だけではないだろうか。ウグイス類は水平の姿勢で止まる。水を飲む時以外地上にはめったに降りない。枯れ葉、草、樹皮で入り口と出口のある球形の巣を地上の窟みに造る。♂は餌運びをする。聞きなしは「焼酎一杯グレー」。繁殖地は日本、朝鮮、中国東北。越冬地は東南アジア。

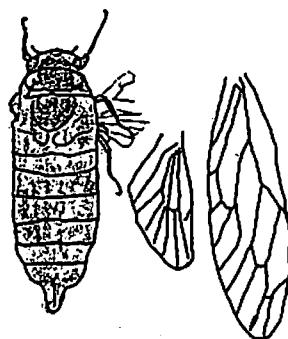


センダイムシクイ

ヤブサメ（ウグイス科）は地上で「シシシシシシ…」とさえずる。体色はセンダイムシクイに似ている。日本で2番目に小さい小鳥で体重は8g。繁殖地、越冬地ともセンダイムシクイと同じ。これらの小鳥は何の目的で東南アジアから危険をおかしてまで、わざわざ日本まで来るのでしょうか？

○ ○ 一番初めに鳴き出す・・・エゾハルゼミ（蝦夷春蝉）

細い管のような口（口吻）を木の師管（同化養分の通路）に差し込み吸う。飛び出すときは、おしつこ（吸った樹液）を出し、体を軽くする。鳴くのは雄だけ、樹液のある所を仲間に知らせるためや、雌を呼ぶために鳴く。発音は腹部の背中側にある発音膜を振動させ、腹の空洞で共鳴させ大声になる。産卵は枯れ木にする。このセミは他とは異なり初夏（5月下旬～7月上旬）に出現する。本道では平地に



エゾハルゼミ♂

いるものの、本州では高山帯にいる。太陽が出て気温が上がると鳴き出し、曇るとやむ。17℃以上で鳴き出すという。「ミョーキン、ミョーキン、ケ、ケ、ケ…」。セミの捕らえ方…夕方になると木から下りて、草の間で休む、早朝にセミの鳴いていた木の下の茂みを探してみる。

似た体形のヒグラシ（7～8月）は道南や本州方面におり、夕方や朝方に「カナカナカナ…」と鳴き、朝早く起こされることがある。

○○ これからの自然観察会の案内

期日・時間	行事名	集合場所	備考
8月9日(木)10:15～13:30	夏の森の観察会（瑞穂の池コース）	開拓の村入口	*昼食
9月9日(日)10:00～14:30	秋の花でにぎわう森を歩こう	交流館	*
10月7日(日)10:00～12:30	芸術の森観察会	芸術の森入口	バス停前
10月11日(木)10:15～14:30	秋の森の匂いをかごう	開拓の村入口	*
11月3日(土)10:00～14:30	晩秋の森観察会（志文別コース）	交流館	冬芽

お誘い合わせてご参加下さい。内容はいずれも、草花・樹木・野鳥。\*印は交流館との共催。